

学力向上通信

令和5年7月3日

7月号

八ヶ崎第二小学校

6月10日の学力向上意見交換会には多くの方にご参加頂き、また、貴重な御意見を多く頂き、誠にありがとうございました。頂いた御意見は、全職員と共有いたしました。大変参考になるものが多く、今後の本校の教育活動に生かしてまいりたいと思います。(なお、意見交換会で使用したパワーポイントの資料は、HP「学力向上の取組」に掲載しました。)

中学校に行ってから英語の学習で苦労しています。

小学校では、3、4年生で外国語活動、5、6年生で外国語科として英語の学習をしています。それとは別に、松戸市では言語活用科英語分野において、1年生から音と文字の関係を学ぶ学習に取り組んでいます。小学校の英語学習の内容は、以下のようになっています。

- ①「書くこと」の指導は、アルファベットを覚える他、英語を書き写したり、例の中から言葉を選んだりするが、単語の綴りを覚えることや、文を作って書くことは行わない。
- ②学習活動は音声を中心としたアクティビティが中心である。
- ③例文をそのまま利用してコミュニケーションを行うが文法の指導は行わない。

そのため、中学校の「書くこと」や文法の学習には、かなりの努力を要することになると思います。(英単語を書いて覚える学習は中学校からです。)また、学習活動も大きく異なります。

小学校では、アルファベットを確実に書けるようにしたり、英語に触れる機会を増やしたりするために、家庭学習の課題に加えるなどの取組が必要だと感じます。また、中学校の英語の先生と交流したり授業を体験したりすることも検討していきたいと思います。

家庭学習に進んで取り組めるようになってほしいです。

eライブラリや自学ノートは、自由課題だと進んで取り組むことが難しいという意見も多かったです。自由度がある方が、主体性が伸びるという利点もありますが、発達の段階に応じて、ノルマを課したり、取組表で計画を立てさせたりすることも必要だと感じました。

宿題の量については、「多い」「少ない」両方の御意見がありましたが、「少ない」と感じる方が多いようでした。家庭学習の目安は「 $\text{学年} \times 10 \text{分}$ 」です。時間が余った場合には、自学や読書にあて、決められた時間は机に向かう習慣を作ることができると良いと思います。

「子どもに勉強させるのに苦労する。」という御意見もありました。子どもが進んで取り組むことができない理由は様々です。面談等でご相談頂き、学校と家庭で連携して取り組むことができると良いと思います。

eライブラリについては、主に、授業中に利用していますが、長期休業や連休の時には、タブレットを持ち帰るようにしています。1年生は、後期からの使用になります。eライブラリには、自ら学習を調整する力を育てるというメリットがありますが、タブレットを使用することに不安を感じる方もいらっしゃいます。その場合は、個別に対応いたしますのでご相談ください。

家庭数

音読の指導のポイントを教えてください。

声の大きさ、間の取り方、読む速さなどがポイントとしてあげられると思います。ですが、ご家庭では基本的に良いところをたくさん見つけて励まして頂けると助かります。「昨日より聞きやすかったよ。」「新出漢字も覚えたね。」「すらすら読めたね。」などの声をかけていただき、子どもたちが自信を持って音読できるようになると良いと思います。

日頃の授業の様子を知りたいです。

まず、大前提として「分かる・できる・楽しい」授業作りを目指しています。その上で、子どもたちが主体的・対話的に学ぶことが重要だと考えています。そのためには、どの学習でもまず自分の考えを持つことが大切になります。本年度は「自分の考えをしっかりともち、分かりやすく伝えるように気をつけていますか。」というアンケートを定期的実施し、児童の4段階の自己評価が平均3.5以上となることを目標として、授業改善に努めています。

「できる子、できない子、どのレベルにあわせていますか。」という質問もありました。評価基準は標準的な学力に合わせて設定しますが、支援の手立てを工夫し、どの学力の子も意欲的に取り組めるような授業を理想としています。

書き順はどこまで正確に教えるべきですか。

漢字テストでは、誤った書き順でも形が合っていれば正解になります。また、テストで書き順を問うことも減ってきていることから、小学校で行う書き順の学習は、新出漢字を学ぶ時と、書写の授業のみです。

しかし、書き順を覚えることにより「きれいに、速く書くことができる。」「漢字を覚えやすくなる。」という利点もあります。まず、子どもたちには、その利点をしっかりと理解した上で、書き順を覚える意欲を持ってほしいと思います。学校では1人1人の手元を見ながら指導をすることが難しいので、ご家庭で誤りに気づいたときに「正しく書いた方がきれいに見えるよ。」などと励ましのお声かけをして頂けるとありがたいです。

この他にも貴重な御意見がたくさんありました。ありがとうございました。

昨年度実施した漢字検定については、本年度は実施をする予定はありませんが、もし実施を希望する方が多い場合には、持続可能な方法を検討したいと思います。面談や懇談会等で担任を通してお伝えください。

なお、本校で実施する算数検定は、本校独自のもので、日本数学検定協会が実施するものとは異なりますので、ご了承ください。

学習進度調整期間について

学習進度調整期間とは、それまでの学習内容が定着していない児童や、課題が終わっていない児童を対象とした補習期間です。長期休業前の1週間程度、放課後に実施します。参加児童は、下校時刻が遅くなりますので、ご了承ください。対象児童には、後日お手紙を配付しますので、同意書のご提出をお願いします。